

地域を発信新聞できた

越前市花筐小
子ども記者クラブ 取材の苦労など発表



越前市花筐小の「子ども記者クラブ」の児童が半年かけて取材、製作した新聞の発表会が11日、同校で行われた。地域の伝統行事などをまとめた二つの新聞を披露し、分

が参加して4月に発足。前期(9月末まで)は8人が2班に分かれ、地域の催しと伝統的な祭りについて調べた。新聞づくりを提案した花筐公民館の小柳和則館長らから祭りの保存会の関係者を紹介してもらい、紙面制作は、福井新聞社の徳島彦NIEコーディネーターや同紙記者から指導を受けた。

この日は後期(3月末までのクラブ員を前に、8人が作った新聞を発表した。継体天皇ゆかりの伝統行事「迹王の餅」は、住民が集落で餅を集めて歩く特徴や保存会長の継承への思いを紹介。花筐公園で約30年続くもみじまつりは、紅葉の美しさを文と写真で分かりやすく伝えた。

徳島コーディネーターは「初めは文字が小さくさんあったが、要約して文字を少なくするなどして随分見やすい紙面になった」と講評。クラブ長の齊藤拓己君は「地域の詳しく



仕上げた新聞について発表する「子ども記者クラブ」の児童=11日、越前市花筐小

い人から話を聞き、行事についてよく知ることができた。写真を大きくし、話していた。(中坪佑香)